

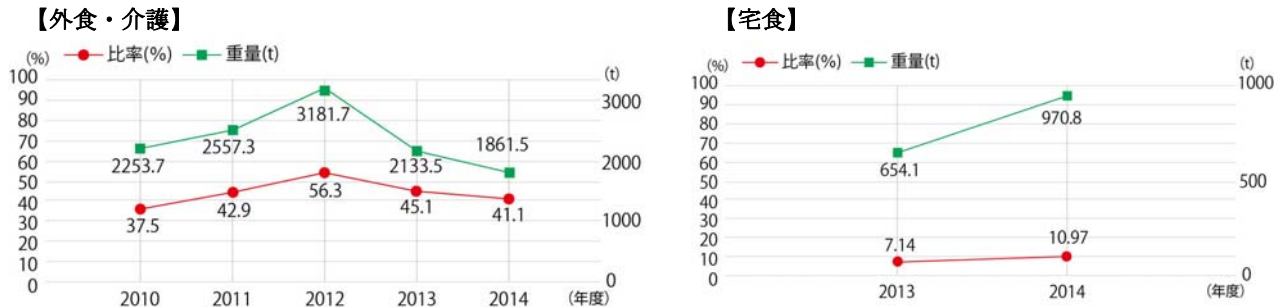
お客様とともに 農業

<経営目的>

有機農業を発展させ、循環型社会を創造し、人々の幸せに貢献する

■有機農産物の積極的活用

ワタミグループは、ワタミファームや、契約生産者様が生産した有機農産物や特別栽培農産物（※1）を積極的に活用しています。2014 年度末現在、ワタミグループが仕入れている農産物は、外食・介護事業においては、仕入量全体の41.1%（4525.5tのうち、1861.5t）（※2）、宅食事業においては、仕入量全体の10.97%（8845.9tのうち、970.8t）（※3）が有機農産物および特別栽培農産物です。



有機農産物及び特別栽培農産物の仕入れ量比率・重量

※1 特別栽培農産物とは：農薬または化学肥料を使わない、あるいは使用量が各地域で定める5割以下に削減された農産物。また、有機野菜と同じ栽培方法であっても有機JAS認定を受けていない圃場で栽培された農産物も含む。

※2 外食・介護事業における有機農産物の仕入れ量比率は14.06%、特別栽培農産物の仕入れ量比率は27.07%

※3 宅食事業における有機農産物の仕入れ量比率は0.50%、特別農産物の仕入れ量比率は10.47%

■「有機循環型モデルタウン」の推進

有機農業を発展させ、永続的に生活できるような環境を創造することを目標としています。食料とエネルギー自給率向上を目指し、営農・集荷・加工・流通に加え、廃棄物の再資源化や飼料化など、それぞれのエリアに沿った形を提案しながら、すべてエリア内で賄うことのできる「有機循環型モデルタウン」を推進します。

ワタミファーム展開図



■北海道での取り組み

養鶏・酪農・乳製品加工

北海道せたな町では、畑作、養鶏、酪農、乳製品加工の各事業を運営しています。鶏は、「純国産鶏もみじ」約2,200羽を、平飼いで飼育しています。乳牛は有機牧草と有機飼料を与え、放牧しています。その生乳と鶏卵を主原料とし、有機乳加工品（チーズ、バター、アイスクリーム）を生産しています。鶏卵、有機乳加工品は2007年に、国内初となるJAS認証を取得しています。2014年12月には、飼育環境の改善を目的に、新しく4棟の大型ハウスの鶏舎を新設し、整備しました。



新工場の設立

北海道せたな町では、これまで乳製品加工センター（チーズ・バター・アイスクリーム）とグランドマザーファクトリー（パンアイス）の2箇所の工場で乳加工品の製造を行っていましたが、2015年8月より、(有)ワタミファーム瀬棚工場として一箇所に集約しました。更なる品質の向上と衛生管理の向上、生産効率と労働環境の改善が主な目的です。高齢者や、障がいのある方も作業を行うことができる施設として稼動しています。これまで以上に地域社会に貢献できるよう取り組んでいきます。



ワタミファームの有機アイスクリーム

弟子屈牧場

北海道川上郡では、弟子屈牧場で畜産事業を行っています。主に日本短角種、ホルスタイン（酪農）を約240頭飼育しており、出荷に至るまで細かく決められた自社基準プログラムにより、自社繁殖・自社育成を行っています。また、育成期間により、牛舎飼育ではなく、完全放牧できる環境づくりも行っています。2015年度からは、日本短角種の飼育については基本的に購入飼料を使用せず、母乳、自給牧草、自給デントコーンのみで試験的に飼養管理しています。また、搾乳については配合飼料を使用せず、Non-GMO（非遺伝子組換え）の範囲内で飼料設計を実施しています。

美幌峠牧場

北海道網走郡では、2013年度より、美幌町から借り受けた美幌峠牧場で畜産事業を行っています。美幌峠牧場では、弟子屈牧場で飼育している日本短角種、ホルスタイン約100頭を、夏場を中心に放牧飼育するほか、町内外の約130頭の牛の預託を受けています。



美幌峠牧場

産学官との連携

美幌峠牧場では、2014年5月より、美幌町、農業大学、地元企業様、美幌峠牧場の4者共同実証試験を開始しました。ワタミファームの肉牛肥育事業において、草地改良試験、土壌改良試験に必要な技術の提供を受け、飼料作物栽培に適した環境づくりに取り組んでいきます。地域での資源循環によって飼料資源を確保し、資源循環型の畜産の確立を図ることで、地域のブランド牛としての付加価値化と地域社会の活性化を目指します。2015年度から試験区を設けて栽培試験を開始し、農業大学による土壌や牧草のサンプリング及び分析を実施しています。

■ 関東での取り組み

千葉県では、山武市の山武農場、香取市の佐原農場、そして南房総市の白浜農場で畑作を行っています。また、「北総集荷センター」「千葉県公設市場」での集荷・販売も行い、「有機循環型モデルタウン」づくりを推進しています。地域の契約生産者様やお取引業者様と協力し、人材育成、農産物の加工・流通をエリア内で完結できるように取り組んでいます。



北総集荷センター

専門機関との調査研究

千葉県北総地区では、2013 年度より、専門機関と協力し、土壌診断や微生物の多様性および数量測定などを行っています。土壌微生物の多様性や数量との相関関係を調査し、作物栽培に活かしていくことを目指しています。また、バイオエタノール抽出実験として土壌の改善と同時に生産ノウハウを外部機関と共同研究しています。新たに2015 年度より種苗会社様と作物栽培における肥料費削減の取り組みを実施しています。

農地の取得

2014 年 6 月、千葉県富里市の農業委員会の承認を得て、(有)ワタミファームは同市内で 0.5ha の農地を取得しました。農産物の生産拠点として、あらゆる可能性を模索し体制を整える計画です。

土づくりセンター

千葉県山武市にある土づくりセンターでは、ワタミグループの外食店舗から出た食品残渣を堆肥化する取り組みを行っています。外食事業が管理する堆肥センターで地元の木材チップを使用し特殊な菌を培養しながら食品残渣の減容を行っています。2015 年 2 月に新設した施設では、これまで外部委託していた堆肥作りの最終工程を行うことができるようになりました。今後は、地元の食品残渣などを受け入れ、ニーズに応じた堆肥づくりをし、堆肥の外部販売も視野に新たな活動を展開していきます。



土づくりセンター

倉淵農場

群馬県高崎市では、2012 年度より、従来の高原野菜の栽培のほかに、蕎麦や牧草の生産を本格的に開始しました。牧草に加えて2015 年から飼料用トウモロコシの栽培も試験的に開始しています。地域に必要なものは地域でまかなうという地産地消と、自社の生産量を増やし、海外調達に滞った際に発生するリスク軽減を目指します。

■中部での取り組み

長野県東御市では、東御農場を運営し、レタス、ブロッコリー、キャベツ、白菜を中心に、5ha の面積で栽培しています。栽培した野菜は、地元農協様へも出荷しています。

地元農協様を通じ地元生産者様から野菜を供給いただくなど、地域に根ざした農場運営を行っています。

2015 年度に地元生産者様と環境にやさしい農業を推進する研究会を立ち上げました。お客様の安全・安心を守るとともに、地域の農業の発展や、環境を守る取り組みを展開していきます。



レタス畑 (東御農場)

■関西での取り組み

兵庫県丹波市では、丹波農場を運営しています。2013 年度より、一次処理施設をワタミ手づくり厨房丹波センターに併設し、丹波農場の主要農産物である玉ねぎの一次処理（皮むき）に取り組んでいます。生産だけではなく一次処理を自ら行うことで、より新鮮な農産物をより安価にワタミ手づくり厨房に供給することを目的としています。

丹波農場と京都府京丹後農場では、収穫量や品質の向上を目指し、地元大学と共同で、玉ねぎ栽培に適した土壌の調査研究に取り組んでいます。



玉ねぎ畑 (京丹後農場)

■九州での取り組み

大分県臼杵市では、臼杵農場を運営しています。2010 年度より、ワタミグループ外食店舗で提供しているオリジナル焼酎の原料としてサツマイモを収穫し、供給しています。2015 年度からは、「盈進」をブラッシュアップした「EiShiN Light (エイシン・ライト)」の原料に使用されています。また、大分県にご協力いただき、栽培方法の検証や土壌分析、栄養価などの分析を実施しながら、輸出向けのミニサツマイモの試験栽培にも取り組んでいます。

■「ワタミファーム農場体験」の開催

ワタミグループでは、ワタミファームの活動を知っていただくために、「ワタミファーム農場体験」を開催しています。「ワタミファーム農場体験」では、収穫体験や有機農業に関する説明、取れたての有機野菜を使用したランチの試食などを行っています。

2014 年度は、11 月に山武農場で開催し 35 名に御参加いただきました。



農場体験の様子